

第5期 雄武町総合計画

後期計画策定審議がスタート

第5期雄武町総合計画の後期基本計画策定に向けた第1回策定審議会が6月6日(水)、地域交流センターで開催されました。会議ではまず、出席者全員で雄武町民憲章を朗唱。町長が出席者一人ひとりに委嘱状を交付し

「委員の皆さまには専門的かつ町民の代表として己憚のない提言を賜りたい」と挨拶しました。次に各委員が自己紹介をし、互選により会長に嘉島壽氏(社会福祉協議会会長)を選出。会長

の指名により阿部正吉氏(民生児童委員協議会会長)が会長職務代理者に決定しました。その後、町長から嘉島会長に諮問書の伝達が行われ、会長

が「皆さまと知恵を絞って、町の発展と人口減少に歯止めをかけるための施策を作っていく」と挨拶しました。

計画の評価を踏まえ、その改善に向けた新規事業の盛り込み、④ワークショップ導入など策定作業を通じた町民と行政の協働、以上4点について承認されたほか、スケジュールについては月1回ペースで全体会議を開催し、会議での意見等を盛り込んだ計画素案について9月までにまとめ、10月に集中審議することを確認しました。また、協議事項では専門部会として、

第5期雄武町総合計画は平成20年度から平成29年度までの10

年を基本構想の期間とし、前期と後期の各5カ年を基本計画の期間と定めています。今回の審議会は後期5カ年の基本計画を策定するにあたって、町民の声を反映させるために設置されたもので、産業・福祉・教育など各分野の町民28人で構成しています。

①総務・行財政部会
②産業建設・環境部会
③社会福祉・教育部会
の3部会を設置し、部会長および部会長職務代理者を決定しました。



↑嘉島会長に中川原町長が諮問書の伝達を行いました

総合計画策定審議会委員名簿 (敬称略)

(1) 総務・行財政部会		
氏名	行政区	備考
細田 尚孝	末広町2区	
嘉島 壽	新日の出町	審議会会長
五十嵐 寛	末広町2区	
城地 剛	宮下町	部会長
本多 芳秋	末広町2区	
今 哲	幌内東町	
木元 之生	幌内浜町	部会長職務代理者
鎌田 香代子	開生	
(2) 産業建設・環境部会		
氏名	行政区	備考
麻生 賢一	日の出仲町	
片川 隆市	共栄	
新山 貴文	幌内浜町	
佐々木 伸行	新町	
太田 修二	末広町2区	部会長
高橋 信一	新沢木	
工藤 正孝	宮下町	部会長職務代理者
石井 友藏	新日の出町	
佐藤 友宇子	新沢木	
(3) 社会福祉・教育部会		
氏名	行政区	備考
阿部 正吉	緑町	審議会会長職務代理者
湯浅 純人	緑町	
中村 信之	末広町1区	
菊地 千秋	開生	
小林 康夫	魚田	
高宮 均	新沢木	
高橋 進	曙	
田口 洋	宮下町	部会長
目黒 佐都美	幸町	部会長職務代理者
中橋 綾子	新日の出町	
掛川 原夕子	新日の出町	

◎スケジュール

審議会では今後、全体会議や専門部会を重ねて後期基本計画案を審議し、基本計画を推進するための実施計画や財政計画との調整を図りながら、11月の答申をめざします。

※審議会の議事録は、町ホームページまたは財務企画課企画調整係で公開しています。

財務企画課企画調整係



↑会議冒頭、町民憲章を出席者全員で朗唱

町民憲章制定 募集作文 (昭和四十五年)

小学生の部一位 雄武小学校六年生児童

『住みよい郷土にするために』

ぼくは、この町に生まれました。小さい町ですが、広びろとした海や山の自然に恵まれ、大きな公害もないこの町を、ぼくは、大好きです。今度、新しく町民憲章もできるそうですし、町民全体の知恵や意見によってきつと立派なものができるでしょう。この町は、以前、人口も一万人をこえたときもあったそうですが、今は、八千人余りというのですが、だんだん人口もへり、ぼくもなんだかきみしい気がします。なぜ、こんな現象がおきるのでしょうか。いろいろな事情がかさなあって、この町をはなれる人も多いのでしょう。この郷土を「明るい住みよい町」として、発展させていくためには、どのようにしていったらよいのでしょうか。むずかしいことはよくわかりません。しかし、自分が住むところだから町民の一人一人がこの町を愛し「住みよい町だ」と思えるように、みんながそれぞれの立場で、協力し発展への努力

をするべきではないでしょうか。「住みよいく」となげくばかりでは、ますます、この町がさびれていくのではないのでしょうか。この町にも、立派な病院や、公民館もでき、また、児童館福祉会館が建てられました。かんきょうの整備という点では、ずいぶんよくなっていると思いますが、これらを、おおいに利用することも、自分たちのくらしを明るく、うるおいのあるものにしてくれるでしょう。

それから、産業面についても考えてみました。ひと口に「豊かな郷土の建設」といっても、なかなか大変だと思えますが、やはりこの町は、農業と漁業の町だと思えます。まず第一にあげたいのは、らく農ということですが、雄武は、まだまだ進んでいないと思います。もっともっと、牛をかうために、農地を広げるとよいと思いますし、今までの農業をやめていった人たちの、農地を求めて、土地を広

げるとよいと思います。そして、牛もふやし、次に子牛も生まれて、大変よくなるのではないのでしょうか。またお金は、かかるかもしれませんが、時間は人手を省くために機械化もはかるとよいと思います。

第二に漁業のことです。近ごろは、さかなもとれなくなつたといわれますが、こんぶや、ほたてのようによくなどをして、毎年生活できるだけの、収入があるようにしたいと思えます。むずかしいことかもしれませんが、漁業をしている人も、町の政治をおこなう人も考えて、事業をおこなえばよいと思えます。また、いまのうちから、海水がきたなくならないよう、みんながどぶをきれいにしたり、工場をきれいにしたり、汚水をださないように、気をつけたいと思います。

第三に、林業はどうでしょうか。これも漁業と同じように、計画的に植林をして、しげんがかれてしまわないように、工夫をして、緑の山をつくり、立派な森林地帯を

せたらよいと思います。これらのことは、やる気があればできると思えます。

第四に、住宅の問題があります。まだまだ住宅にこまっています。人がたくさんいますので、よいかん境づくりという意味でも、みんなが住宅に不じゅうしないようにどんどん建設したらいと思えます。これらが、少しずつでも改善されると、だんだん「豊かなくらし」に近づいていくと思えます。

しかし、どんな立派な施設ができて、どんなにかん境がすばらしくなってもそこに住む人間が、貧しい心であっては意味はないと思えます。みんなが、自分の住む町を愛し、また、公共物を大切にしたり、おたがいにたすけ合う精神をもって、生きていくことが大事ではないでしょうか。

「豊かな心」の中にこそ、この町のほんとうの発展があると信じます。たとえ、過疎地帯の町であっても、この町に生まれた者として、ぼくはこの町を愛しほこりに思っています。やがて大人になったら、この町にくしたいと思えます。

雄武町百年史から抜粋